

# 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	新・情報処理技術者試験に対応し再就職を支援する体系的な教育プログラムの開発と実証		
法人名	学校法人帯広コア学園		
学校名	帯広コア専門学校		
代表者	理事長 神山 恵美子	担当者 連絡先	事務長 山崎伸太郎 TEL 0155-48-6000

## 1. 事業の概要

本事業は、若者がソフトウェア業界を離職する一因として、体系的な専門知識の欠如があるとの問題意識に端を発している。そのような離職のケースにおいては、情報技術に関する体系的な「学び直し」が復職・再チャレンジに有効であると考え、平成21年度から実施が予定されている新しい情報処理技術者試験制度の体系に基づいた再チャレンジ学習プログラムの開発を試みた。

そのために、まず、道内企業を中心とした企業に対して、若者の離職要因や離職者の特性を明らかにするためのアンケートと、平成21年に予定されている情報処理技術者試験改革の内容を調査した。次に、これら調査結果を踏まえたキャリアカウンセリングツール及び60時間の再チャレンジ学習プログラムを構築し、この主要な部分を占めるCBT (Computer Based Testing) 学習システムを開発した。

最後に、開発した学習プログラムとコア教材を用いた実証実験は、78名の受講者を対象に実施した。その結果、開発した再チャレンジ研修プログラム及びCBT学習システムの有効性を検証できた。

## 2. 事業の評価に関する項目

### ①目的・重点事項の達成状況

本事業の意義は、離職したIT技術者がもう一度体系的に学び直すことの有効性を検証することにあった。そして、国家試験である情報処理技術者試験の改革が、その「学び直し」にも適用できることが検証できれば、本事業の成果は非常に大きいと考えながら事業を推し進めた。結果として、新しい試験制度の趣旨を十分に汲み取った学習プログラムとCBT学習システムを開発し、その有効性を確かめられたことは誠に意義深いことであり、本事業の趣旨に100%叶う成果をあげることができたと確信している。

### ②事業により得られた成果

構築した60時間の再チャレンジ学習プログラムの概要は次のようなものである。

- A 知識チェック[CBT学習システム、3.0時間]
- B ストラテジ系知識学習
  - B-1 企業と法務[eラーニング、6.0時間]
  - B-2 経営戦略[eラーニング、6.0時間]
  - B-3 システム戦略[eラーニング、4.5時間]
  - B-4 トレーニング[CBT学習システム、1.5時間]
- C マネジメント系知識学習
  - C-1 開発技術[eラーニング、3.0時間]
  - C-2 プロジェクトマネジメント[eラーニング、4.5時間]
  - C-3 サービスマネジメント[eラーニング、3.0時間]
  - C-4 トレーニング[CBT学習システム、1.5時間]
- D テクノロジ系知識学習
  - D-1 基礎理論[eラーニング、6.0時間]
  - D-2 コンピュータシステム[eラーニング、4.5時間]
  - D-3 技術要素[eラーニング、7.5時間]
  - D-4 トレーニング[CBT学習システム、1.5時間]

E 模擬試験[CBT学習システム、3.0時間]

F キャリアカウンセリング[対面指導、1.0時間×4回]

※学習順序は、A→(B～D:順不同)→E

※キャリアカウンセリングは、Aの前、Aの後、Dの後、Eの後、計4回実

### ③今後の活用

開発したCBT学習システムは、専門課程、生涯学習課程のいずれにおいても即使用できるものであるから、20年度以降実施するカリキュラムの中で積極的に活用していきたい。また、開発したキャリアカウンセリングツールも、学生・社会人に対するキャリア指導の局面において積極的に活用を図る予定である。

### ④次年度以降における課題・展開

新しい情報処理技術者試験制度に基づく試験は、平成21年4月から実施される。本事業において体系的な学び直しの指針とした「ITパスポート試験」の内容については、20年度において、数回にわたって公式情報が公開される予定になっており、その動きに合わせて、構築した学習プログラム、開発したCBT学習システム、キャリアカウンセリングツールの内容を微調整する必要があると認識している。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

離職したIT技術者の再チャレンジ学習プログラムを開発するために、本事業では、離職したIT技術者の特性、及び、新しい情報処理技術者試験の内容等に関する実態調査を行った。

まず、離職者特性については、当学園卒業生の雇用実績のある道内企業1,100社に対するアンケート調査を実施し、142社から回答を得た(回収率13%)。その回答から、離職者には「コミュニケーション能力が低い」、「人間関係の形成能力が低い」、「根気・忍耐力がない」といった特性があり、特に、早期離職者に対象を絞ると、「根気・忍耐力がない」という傾向が顕著に見られることが分かった。また、在職者と離職者を比べると、企業活動、経営戦略マネジメント、法務など、新試験制度において「戦略系」と区分される分野において、在職者のほうが離職者に比べて能力があることが分かった。さらに、道内企業では、まだ、新試験制度に対する取組みが進んでいるとはいえない状況が明らかになった。

次に、新試験制度においては、これまでの開発者側、利用者側の区分が撤廃され、同一の試験範囲によるスッキリとした出題体系になること、その代わりに、エントリーレベルとして「ITパスポート試験」が実施されること、その試験範囲の詳細などを明らかにした。また、新試験制度には、各種スキル標準との不整合を調整する趣旨があるものの、たとえば、新試験制度のレベル設定とITスキル標準におけるレベル設定の間には微妙なずれがあり、ITスキル標準の中で示されている研修ロードマップの適用においては注意が必要であることも明らかになった。

### ②カリキュラムの開発

本事業では、実態調査を踏まえ、IT技術者の再チャレンジ学習プログラムに求められる要件を、学習体系、学習方法・手段、学習規模、及び、学習内容の各面から検討した。その結果、4回のキャリアカウンセリング(計4時間)を含む、60時間の再チャレンジ学習プログラムを開発した。次に、この学習プログラムのキャリアカウンセリング機会において、キャリアカウンセラーと相談者が共有できる情報をキャリアカウンセリングツールとして位置づけ、4つのツールを開発した。さらに、学習プログラムの中核をなす部分で用いる教材として、CBT学習システムを開発した。

### ③実証講座

開発したCBT学習システムについては、体系的な学び直しの動機が強いと思われる78名の受講者を帯広及び神戸にて選定し、8日間に渡る実証実験講座を開催して、そこで実際に使用した。実証実験の成果は、スキル・知識に関する事前及び事後における主観的な自己評価の伸び、及び、CBT学習システムから出力される学習時間、得点等の客観的情報をもとにこの結果をもとに検証した。また、受講者に対するアンケート調査も実施した。自己評価の結果は各分野、とりわけ、離職者のスキルが低いとされる戦略系分野(調査事業で裏付けられている)において著しい伸びを示した。また、客観的情報からも、CBT学習システムに対して真剣に取り組んだ受講者の学習成果に伸びが見られた。

さらに、アンケートから、CBT学習システムの役立ちが極めて高いことが確かめられた。これらの結果から、本事業で構築した学習プログラムが、IT技術者の再チャレンジにとって非常に有効なものであることを検証できた。

#### ④その他

本事業の大きな特色として、教材開発にあたり、過去の情報処理技術者試験において出題された1,500問以上の問題について精緻な分析を行ったことが挙げられる。この分析の結果をふまえて、新しい出題分野については、まったくゼロの状態から新規に問題を作成して解説も作成した。

その結果完成したCBT学習システムは、すぐにITパスポート試験が実施されたとしても、そのまま模擬試験として活用できるほど実践性の高いものになっている。